2023年度　第1回　教育課程連携協議会　議事要旨

□　開催日時：2023年9月26日（火）15時00分～16時　分

□　場　　所：オンラインビデオ会議システムによる

□　出 席 者：山田学部長、山内理学療法学科長、辛島作業療法学科長
滋賀県健康医療福祉部　角野理事、滋賀県医師会　越智会長
滋賀県理学療法士会　平岩会長、滋賀県作業療法士会　木岡会長
市立長浜病院リハビリテーション技術科　西村主幹
滋賀県立リハビリテーションセンター　乙川主任主査

□　陪 席 者：山川学長、中村センター長、岩崎センター長代理
丸山学生支援グループ長、吉田総務グループ係長

□　欠　　席：山本副理事長兼学長補佐
マキノ病院リハビリテーション科　杉原科長
東近江市地域包括支援センター　河島センター長

１．議　事

（１）審議事項

①　副議長の選任

本会の副議長の任期満了に伴い、副議長の選任について審議を行った。

審議の結果、本学、理学療法学科長　山内が選任された。

（２）報告事項

①　2023年度　教育活動実施状況　報告（各学科長より）

理学療法学科長　山内より以下のとおり報告が行われた。

1年生について、1名が退学となったがその他の学生は順調に学年が進行し、見学実習に臨んでいる。

2、3年生について、退学者が少しずつ出てきている。

退学理由は様々だが、普段の授業に全く出席しなくなった学生もおり、担任が個々に保護者と連携しながら指導と相談を行ったが改善が出来なかった。

4年生については順調に臨床実習も終え、国家試験合格に向けて準備を進めているところである。

作業療法学科長　辛島より以下のとおり報告が行われた。

1年生については、休退学者はおらず順調に進行している。

2、3年生になると休・退学者が出てきており、要因としては以下3つが考えられる。

Ⅰ.入学前から精神疾患や発達障害を持っており、学生生活に馴染めない、授業についていけない。

Ⅱ.複数の授業において試験不合格などにより単位が取得できていない。

Ⅲ.臨床実習に臨む時期となり、自身が描いていたリハビリ職への想像と実際に乖離があり、進路の変更。

上記Ⅰについては本学の学習支援センターと担任教員が連携し、可能な限り配慮を行い対応をしている。

上記Ⅱについては成績不良者に対し、早期から担任教員が個別指導などを実施している。

4年生については7名が卒業予定であり、国家試験に向けて学科内の国家試験対策担当教員が中心となり、模試の結果による現状の確認をしながら指導を行っている。

作業療法学科においては成績不良者や問題を抱えている学生を中心に、年に3～4回程度、個別面談・指導を実施している。

（角野委員より）

理学療法学科の学生で授業に出席しなくなったとの報告があったが、原因はなぜか。

作業療法学科の退学生の退学理由として3つ上げられたが、各理由の割合はどうなっているのか。

（理学療法学科長　山内より）

出席できなくなった学生の中には、朝、起床できず登校できない者が何名かいた。

担任教員が保護者とも面談し、家庭での指導及び学校からの定期連絡を行ったが、改善

に至らなかった。

また、基礎医学系科目の内容が理解できず、試験前からあきらめてしまう学生がおり、面談において状況を確認すると、高校まで勉強をしたことがない、または勉強のやり方がわからないという状況であった。担任が空きコマ時間を利用し、とりあえず机に着席させて勉強の進め方を指導したが、椅子に継続して座っていられない、または集中が継続できないという状況でこれ以上の在学が難しいと判断して退学に至るケースもあった。

その他、作業療法学科と同じように理学療法士という職種に対する意識が薄れたため退学して進路変更するケースや保護者の経済的理由による退学もある。

（作業療法学科長　辛島より）

2 年生 1 名については精神疾患的な理由による。

3 年生については 4 名が進路変更を理由としている。ただし、うち 2 名についてはバックグラウンドとして成績不良も要因となっている。

4 年生については精神疾患を理由とするものが 1 名、成績不良者が 1 名、その他の理由と考えられるものが 2 名である。

（角野委員より）

両学科の退学理由や状況は理解できた。進路変更については本人の事情や今後を考えると致し方ないと思えるが、精神疾患のある学生や成績不良者への対策はもう少し対応を見直していただきたい。

（作業療法学科長　辛島より）

先に述べたとおり、担任による個別面談のほかに作業療法学科では月に 2 回ホームルームを実施しているなど、学生が気軽に教員に相談できる環境をつくるよう心掛けている。

また、今年度から成績不良者などに発達障害を持っているのか面談時にチェックできるように体制を整え、早期にそういった学生に配慮ができるよう対策している。

なお、退学の意向を示す学生にも休学という選択肢を案内し、すぐに退学するのではなく休学中に自身の将来などを冷静に考えさせ、休学中には定期的に担任教員から状況の確認と相談に応じている。

（リハビリテーション学部長　山田より）

退学者対策については、両学科とも様々な対応策を検討し実施しているが、非常に苦慮しているのが現状である。

本会の委員の皆様からも何かよい対応策やご意見があれば是非、ご協力いただきたい。

（西村委員より）
学習習慣がない学生について、入試においてはどのような状況となっているのか。
入学試験の結果などで学習が難しいと判断することは難しいのか。

（理学療法学科長　山内より）
学習習慣のない学生の半数以上が指定校推薦入試で入学してきた学生である。あとの半分は公募制推薦が主で一般入試が少数いる。高校からの推薦入試という性質上、特に指定校推薦については不合格が出しにくい。

（作業療法学科長　辛島より）
本学の定員不足という現状では多少、学力不足の学生であっても受け入れなけれならなくなっている。

（西村委員より）
臨床の現場でも学習意欲の低い学生への指導に苦慮している。
大学においてそういった学生への対応、また、入学生の受入について検討の継続をお願いしたい。

② 言語聴覚療法学科設置及び理学療法学科・作業療法学科新カリキュラムの届出状況
及び　八日市キャンパス改修の進捗状況　報告

事務センター長代理岩﨑より、言語聴覚療法学科設置について文科省より認可されたこと及び2024年度からの理学療法学科・作業療法学科の新カリキュラムが承認されたとの報告が行われた。
また、2024年度より稼働予定の八日市キャンパスの改修状況について概要説明が行われた。
なお、リハビリテーション学部長　山田より新カリキュラムについては全ての学科において、本会で提言された「データサイエンス」の科目が新たに追加されてた旨の説明が行われた。

③　2023 年度　地域連携事業について

事務センター長代理　岩﨑より 2023 年度の地域連携事業について、実施状況及び実施予定内容について説明が行われた。

④　文部科学省の設置計画履行状況等調査(実地調査)について

事務センター長　中村より先般、実施された本学の設置計画履行状況等実地調査結果について概要の説明が行われた。

⑤　学生募集の状況について

事務センター長　中村より 2024 年度　学生募集状況について以下のとおり説明が行われた。

各学科の定員について、理学療法学科は 10 名減の 70 名、作業療法学科は 10 名減の 30 名、言語聴覚療法学科は 20 名となっており、総定員は変わっていない。

理学療法学科…昨年より反応が弱い。何とかして 80 名は確保したい。

作業療法学科…2023 年度は 18 名入学と振るわなかったが、2024 年度はもう少し確保できるのではないかと考える。

言語聴覚療法学科…本学に言語聴覚療法学科できるということがまだ県内に浸透できていない。高校訪問やオープンキャンパス参加者の状況から 12 名程度は見込める。

(乙川委員より)

2024 年 1 月 13 日に草津イオンモールにおいて滋賀県の理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会合同でイベントを開催する予定である。

ついては、貴学もご参会いただき、一緒にリハ職の PR ができればと考える。

(３) その他

各委員より以下のとおり発言が行われた。

(平岩委員より)

臨床の現場からの意見を言わせてもらうと、優秀な人材が欲しいのはもちろんではあるが、最低限の社会性をもったセラピストの養成を頑張っていただきたい。

退学生にはそれぞれのバックボーンがあり、それに合わせた対応を個々に行っていくのは大変だとは思う。できる限り早期に問題を発見して対応できる仕組みづくりや実施を進めてほしい。

専門職養成校であるため、授業以外のことを実施できる余裕があまり無いとは思うが、何か楽しみが無いとモチベーションを持って積極的に登校することは難しいと思う。

サークル活動などの勉強以外の活動も積極的に取り組んでいただきたい。

（木岡委員より）

リハビリ職養成施設卒業後のスキルアップ及び地域への貢献活動がリハビリ職には重要だと思っている。

各士会は会員間の橋渡し役として会員の連携を図り地域に貢献することや、お互いに研鑽できる場を提供するなど重要な役割をもっている。

しかしながら、現在各士会において会員離れが深刻な状況となっている。ついては大学と各士会が協力してリハビリ職の者がスキルアップできるようなセミナーの実施や地域貢献活動を実施できればと考えている。また、併せて地域の方々にリハビリ職についての理解や興味を持っていただけるような活動も協働連携していきたい。

（越智委員より）

退学生の中に朝、起床できず登校ができない学生がいるということであるが、そういった学生については医療が関わっていける。

精神科医にも頼って、医療人養成の前に社会に適応できるようフォローできる体制も検討いただきたい。

（リハビリテーション学部長　山田より）

越智委員よりアドバイスいただいた精神科医との連携については、考えが及ばなかった。今後の検討課題の一つとしていきたい。

（西村委員より）

自身が学生の時には留年制度があり、単位を一つでも落とすと進級ができないので危機感をもって勉学に励んでいた。

実習生を受け入れるにあたり、基礎医学系科目の単位を取得していないにも関わらず、実習に臨んでくる学生がおり、実習指導に支障が出ている。

進級要件や履修要件を設ける予定はないのか。

（理学療法学科長　山内より）

現在、来年度からの新カリキュラムに合わせ、履修要件を検討中である。

西村先生のご指摘どおり、必要な知識をもって実習に臨めるようにしたい。

（乙川委員より）

平岩会長も発言されていたとおり、勉強以外で楽しめる場を設けることは非常に重要であると考える。

貴学で進められている地域連携事業に学生も積極的に参加していただき、実際の現場をみることでモチベーションアップに繋げて欲しい。また、授業においても実際の現場を見る機会を増やしていただくことを検討いただきたい。

（角野委員より）

滋賀県内におけるリハビリ職養成校は貴学のみである。医療機関だけではなく企業や様々な場面でリハビリ職が必要とされている。

学生が入学後、あれ？何か思っていたことと違うなと思わせるのではなく、入学後早期にリハビリ職が活躍している現場を見せてあげモチベーションアップに繋げて欲しい。

終わりに学長　山川より挨拶が行われた。

以上